

UNHCR WILL2LIVE Cinema 学校パートナーズ

難民映画「アイ・アム・ロヒンギャ」上映会とトークイベントを実施します
ロヒンギャの現状を知り、問題の背景を知ることから始めます

名古屋学院大学(名古屋市熱田区熱田西町)は UNHCR WILL2LIVE Cinema 学校パートナーズとして、下記のとおり難民映画「アイ・アム・ロヒンギャ」の上映会を 12 月 21 日(土)に実施します。上映にあたり全国難民弁護団連絡会議代表で在日ビルマ人難民申請弁護団代表の渡邊彰悟さんをお迎えし、ロヒンギャ難民の現状についてお話をうかがい、映画への理解をより深めます。一般の方も入場無料、事前予約不要でご参加になれます。

<上映作品「アイ・アム・ロヒンギャ」について>

監督：ユスフ・ズイーネ 制作：カナダ/2018 年/90 分

[内容]ミャンマーから命がけでバングラデシュに避難したロヒンギャ難民たち。やがてカナダのオンタリオ州へ定住し、生活をあらたに立て直そうと奮闘する。14 人の若者が、過去におった拷問、殺人、レイプ、焼き討ちといった壮絶な経験に苦しみながらも、地球上で最も迫害を受けている民族といわれるロヒンギャの人々の現実を世界の人々に伝えるために立ちあがった。演劇を通じて、自身の経験、トラウマ、アイデンティティに向き合い、若者たちはその過程で大きく成長していく。彼らを突き動かすのは、忘れてはならない悲劇を伝えていかなければならないという使命感であった。

<トークイベントについて>

[ゲストスピーカー 渡邊彰悟 氏]

いずみ橋法律事務所所属。全国難民弁護団連絡会議代表。1990 年代はじめより、難民申請者など在外外国人への法律支援を行ってきました。在日ビルマ人難民申請弁護団は述べ約 600 人の難民申請を受任、198 人の難民認定を勝ち取っています。

<UNHCR WILL2LIVE Cinema 学校パートナーズについて>

UNHCR(国連難民高等弁務官事務所)は日本において難民問題の教育・啓発活動に欠かせない教育機関と連携し「UNHCR WILL2LIVE Cinema 学校パートナーズ」を展開しています。これは学校での映画上映を通じて世界中で紛争や、迫害によって家を追われた人々の問題について理解を深めることを目的とした取り組みです。「学校パートナーズ」に参加する各校は「UNHCR 難民映画祭」で過去に上映された作品、あるいは「UNHCR WILL2LIVE 映画祭 2019(第 14 回 UNHCR 難民映画祭)」で上映された作品の上映イベントをそれぞれ主催します。

「UNHCR 難民映画祭」は 2006 年に始まり、2019 年から新名称「UNHCR WILL2LIVE 映画祭 2019」として 9 月から 10 月にかけて開催されました。WILL2LIVE(ウィル・トゥー・ライブ)は困難を乗り越え逆境に立ち向かい続ける難民の、厳しい境遇にあっても生き抜こうとする意志「Will to live」に勇気をもらい、人々の「Will to live」を共有し合うことを意味しています。

UNHCR WILL2LIVE Cinema 学校パートナーズ

難民映画「アイ・アム・ロヒンギャ」上映会/トークイベント

■ 日時：2019 年 12 月 21 日(土) 13 時 00 分～16 時 00 分(開場 12 時 30 分)

■ 場所：名古屋学院大学名古屋キャンパスしろとり 翼館 4 階クラインホール
〒456-8612 名古屋市熱田区熱田西町 1 番 25 号

■ 定員：先着 300 名程度(入場無料/事前予約不要)

■ プログラム： 13:00 開会挨拶
13:10～14:10 渡邊彰悟 氏によるトーク
14:25～15:55 「アイ・アム・ロヒンギャ」上映

■ 主催：名古屋学院大学 ■後援：国連 UNHCR 協会

■ 詳細お問合せ：名古屋学院大学国際文化学部 佐伯研究室 saeki@ngu.ac.jp

